

株式会社 エーワン精密

平成22年6月期・第2四半期決算説明資料

平成22年6月期・第2四半期決算説明資料目次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	1
② 事業内容・特色	2
③ コレットチャック部門	3
④ 切削工具部門	4
⑤ 自動旋盤用カム部門	5
(2) 第2四半期決算について	
① 決算の概要	6
② 損益の状況	7
③ 財務の状況	8
④ キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
① コレットチャック部門	10
② 切削工具部門	11
③ 自動旋盤用カム部門	12
(4) 添付資料	13

当社の事業展開

経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

事業内容

コレットチャックの製造・販売（昭和51年～）

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作（平成11年～）

自動旋盤用カムの製造・販売（昭和45年～）

事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

13,500社以上の顧客からリピートオーダーが入る

コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

コレットチャックが主に使われる機械

NC旋盤 3,026億円(2008年生産額) 約2.5万台

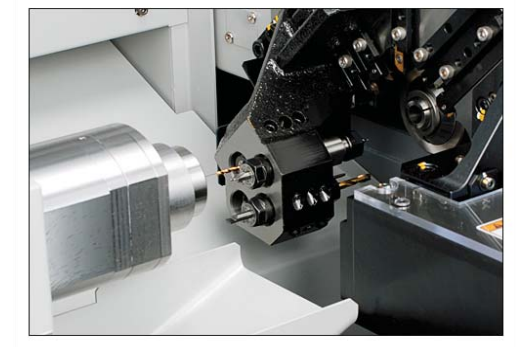
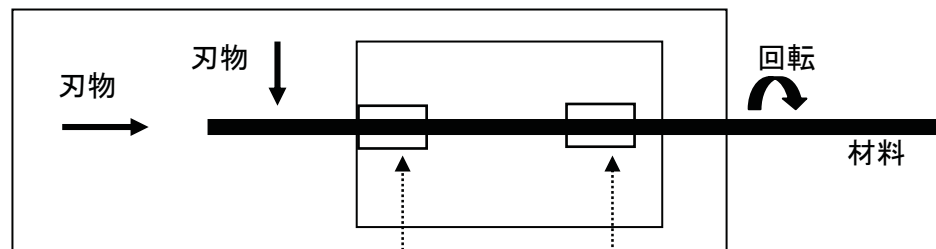
うち CNC自動旋盤 約900億円(2008年推定生産額) 約9,000台

主なCNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ、ミヤノ、高松機械、野村精機

特殊コレットチャック

専用機 1,286億円(2008年生産額) 約4,450台



加工部品

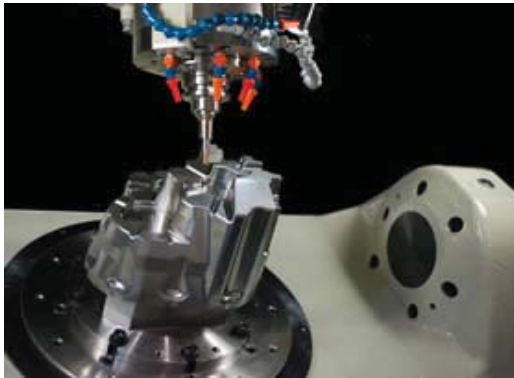
精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器など



切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



主に切削工具を使用する機械

マシニングセンター 3,717億円(2008年生産額) 約15,700台
NCフライス、中ぐり盤 257億円(2008年生産額) 約 1,070台

使用される工具

超硬エンドミル 366億円(2008年生産額)
超硬ドリル 358億円(2008年生産額)
その他超硬工具 483億円(2008年生産額)

主なマシニングセンターメーカー

オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械
三井精機、三菱重工など

- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型

加工部品のイメージ



自動旋盤用カム部門

カム式小型自動旋盤で使用されるカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

機械のイメージ写真



加工の様子



加工部品のイメージ写真



第2四半期決算概要

売上	製造業において大幅に落ち込んだ生産活動が徐々に回復する過程にあたり、 当社の売上高も回復傾向を示した。
原価	第2四半期より新工場の減価償却が開始。
利益	売上増に伴い利益も増加
その他	

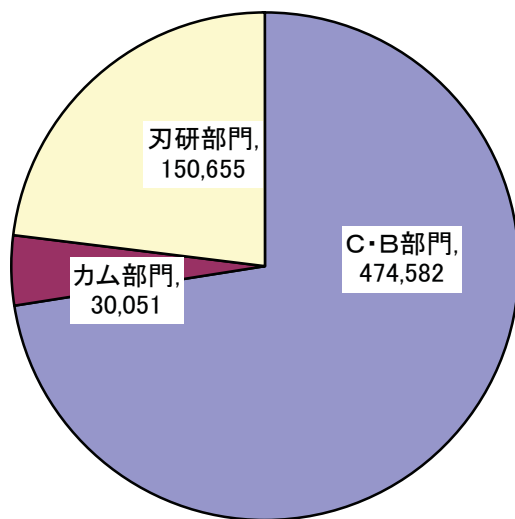
人件費

	前第2四半期	当第2四半期
労務費	332,616	271,912
コストに占める比率	67.8%	64.1%

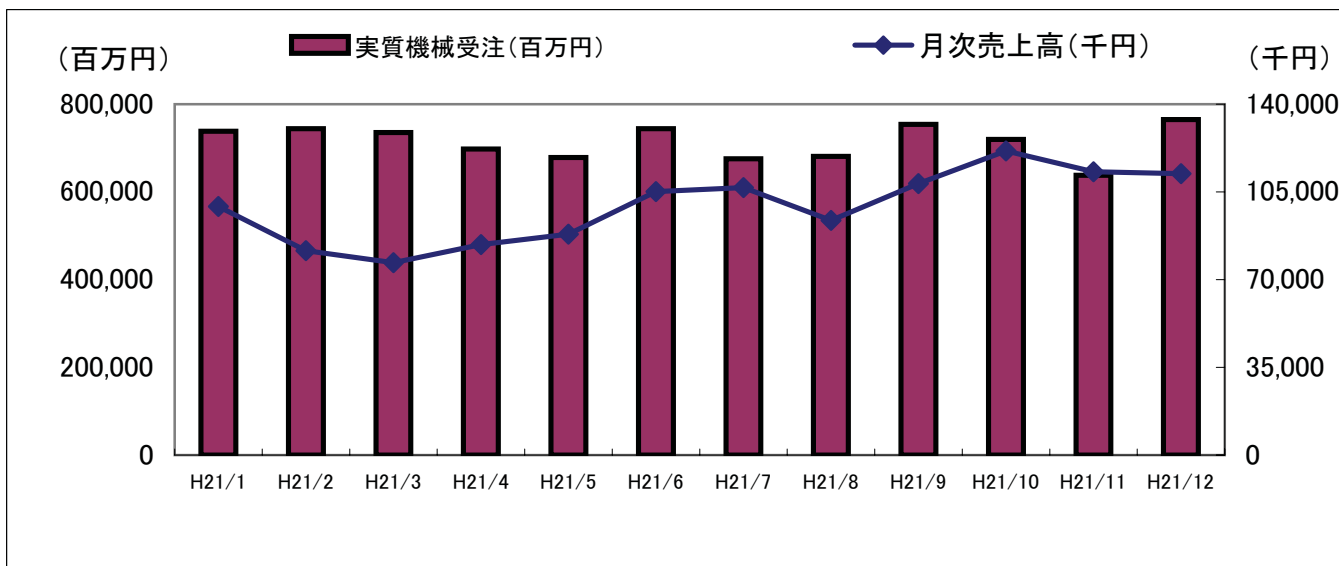
設備投資額と減価償却費

	前第2四半期	当第2四半期
設備投資額	303,846	163,281
減価償却費	99,654	111,069

部門別売上構成比(千円)



実質機械受注と月次売上高



平成22年6月期・第2四半期 損益の状況

(単位：千円)

	前第2四半期			当第2四半期			増減要因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							
コレットチャック	672,680	70.8%	88.6%	474,582	72.4%	70.6%	コレットチャック、自動旋盤用カムは主に量産部品加工に使用される工具で量産加工の戻りに連動し受注も増加。
切削工具	242,514	25.5%	93.0%	150,655	23.0%	62.4%	切削工具は量産加工から単品加工まで幅広く使用されており受注の落ち込みが遅かったが回復も緩やか。対前年同期比は37.9%減となった。
自動旋盤用カム	34,970	3.7%	66.5%	30,051	4.6%	85.9%	対前年同期比はコレットチャック部門が29.4%減、自動旋盤用カムが14.1%減となった。
合計	950,165	100.0%	88.6%	655,289	100.0%	69.0%	
売上原価	490,755	51.6%	94.6%	424,177	64.7%	86.4%	売上が減少した分、固定費の割合が大きくなり原価率上昇。
売上総利益	459,409	48.4%	82.9%	231,111	35.3%	50.3%	
販売費及び一般管理費	151,809	16.0%	93.1%	131,345	20.0%	86.5%	
営業利益	307,600	32.4%	78.7%	99,765	15.3%	32.4%	売上減少により損益分岐点比率上昇、利益率低下。
経常利益	323,199	34.0%	79.1%	109,807	16.8%	34.0%	
当期純利益	12,777	1.3%	5.2%	63,466	9.7%	496.7%	

平成22年6月期・第2四半期 財務の状況

(単位：千円)

事業年度 資 産	前事業年度末		当第2四半期		主 な 増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	2,434,182	36.0%	2,547,484	37.3%	113,301千円増加。
売上債権	222,724	3.3%	276,460	4.0%	前期の第3, 4四半期に比較し売上高が増加したことにより売上債権が53,735千円増加。
棚卸資産	218,337	3.2%	204,483	3.0%	売上高の回復傾向に伴い棚卸資産は13,854千円減少。
その他流動資産	717,700	10.6%	525,390	7.7%	未収還付法人税等が117,006千円減少。
固定資産	3,168,944	46.9%	3,276,369	48.0%	新工場完成により建物及び構築物が419,499千円増加。
資 産 合 計	6,761,890	100.0%	6,830,187	100.0%	
負 債 ・ 資 本					
買入債務	5,491	0.1%	8,744	0.1%	未払金が15,707千円増加。
その他流動負債	48,728	0.7%	121,277	1.8%	未払法人税等が55,364千円増加。
固定負債	275,401	4.1%	290,405	4.3%	退職給付引当金が11,314千円増加。
負 債 合 計	329,621	4.9%	420,427	6.2%	
純資産合計	6,432,268	95.1%	6,409,760	93.8%	株式配当金支払いなどにより利益剰余金が26,533千円減少。
負債・純資産合計	6,761,890	100.0%	6,830,187	100.0%	

平成22年6月期・第2四半期 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

	前第2四半期	当第2四半期	対前年比増減額	主 な 増 減 要 因
営業活動によるキャッシュ・フロー	402,237	370,569	▲ 31,668	主な増加要因：税引前四半期純利益108,440千円、減価償却費111,069千円、法人税等の還付額121,346千円 主な減少要因：売上債権の増加額53,735千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 103,380	▲ 118,982	▲ 15,602	主な増加要因：有価証券の償還による収入500,000千円 主な減少要因：有価証券の取得による支出504,223千円、有形固定資産の取得による支出163,281千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 162,056	▲ 89,982	72,073	全額配当金支払額
現金及び現金同等物の増減額	136,801	161,604	24,803	
現金及び現金同等物の期末残高	1,374,104	1,134,594	▲ 239,510	

今後の事業展開 ～ コレットチャック 部門

事業環境

- ◇金属部品加工の微細化・精密化の進展
- ◇大量生産品や高精度を要求されない部品は海外生産へ
- ◇工具の売上は機械稼働率とほぼ連動

競合状況

- ◇国内は数社、中国等の工具メーカーの台頭(納期・品質で不安定)

当社の事業展開

- ◇専用機・NC旋盤向け特殊コレットチャックの対応力向上
- ◇顧客の要望の充足、納期・品質の徹底

今後の事業展開 ～ 切削工具部門

事業環境

- ◇加工複雑化に伴い特殊刃物ニーズ拡大
- ◇高価な超硬工具普及により再研磨ニーズ増大
- ◇加工工程短縮・効率化を図るため、高精度の特殊切削工具へのニーズが高まる

競合状況

- ◇市場規模推定250億円
- ◇メーカー系、工具商社、各地域ごとに中小規模専門多数

当社の事業展開

- ◇営業地域拡張し、知名度・認知度向上を目指す
- ◇特殊ものへ対応範囲を拡大し、新たな顧客層の拡大に努める

今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム 部門

事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

競合状況

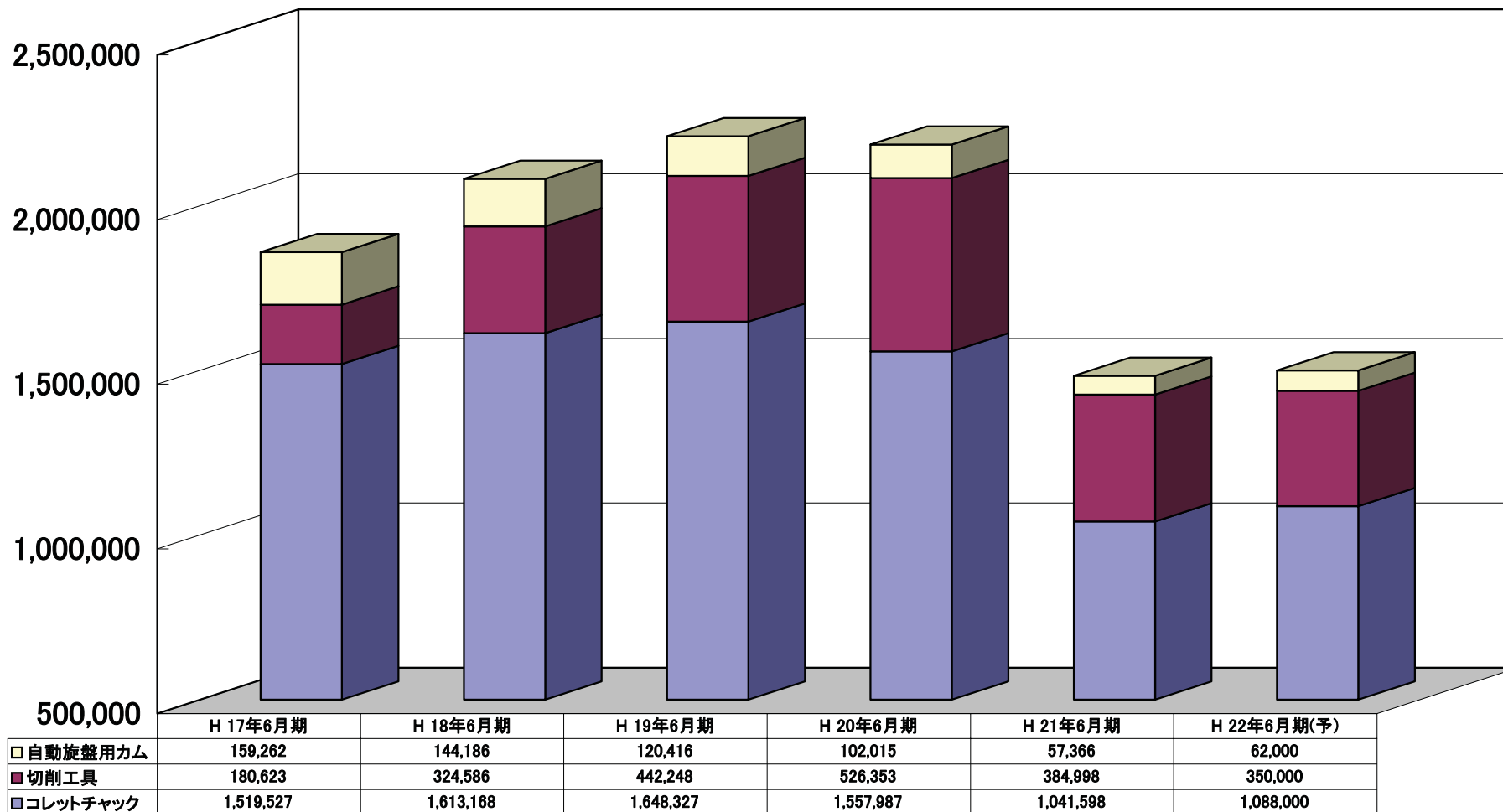
- ◇1億円の市場規模で既存の中小企業が継続している

当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

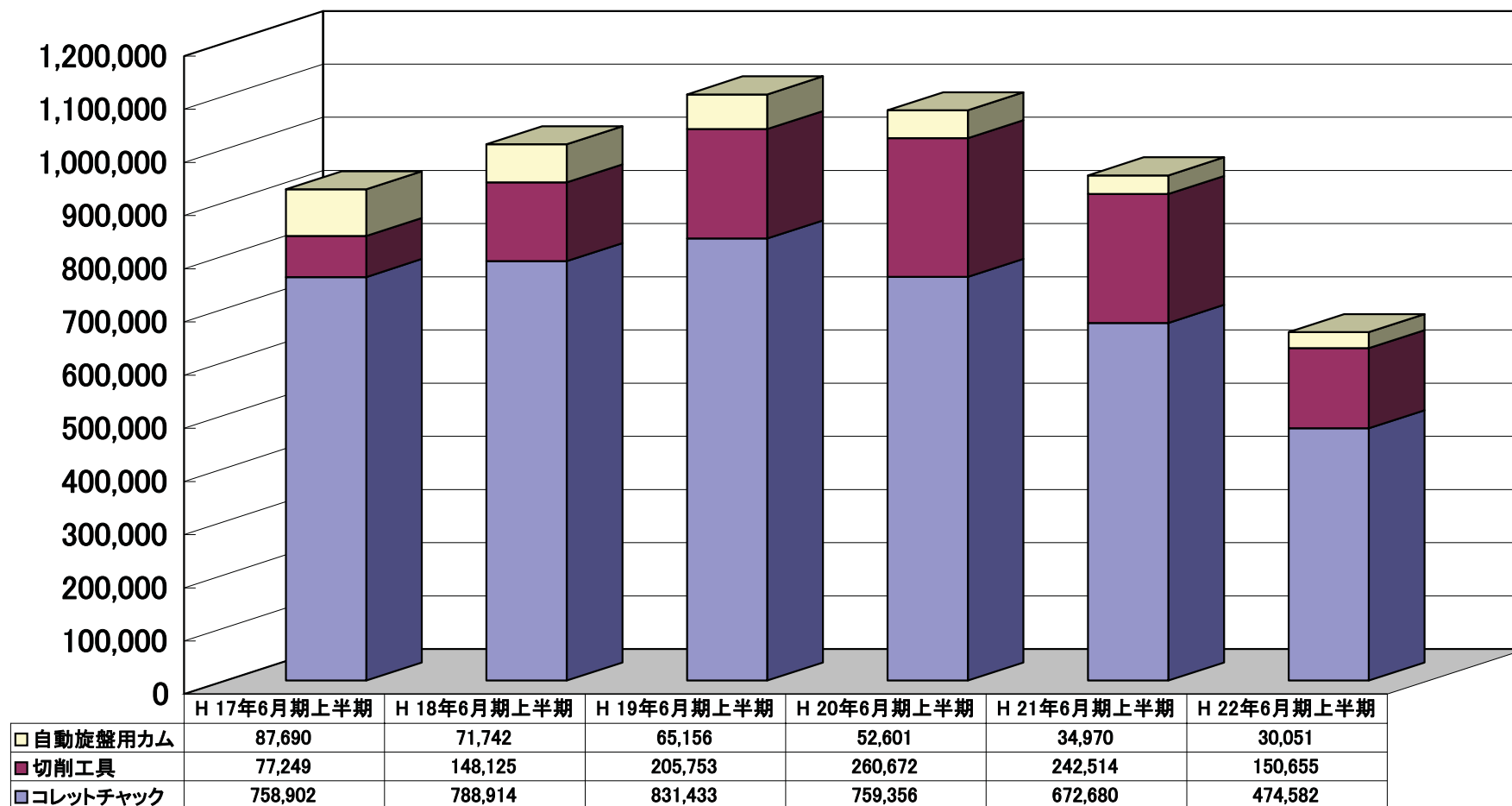
部門別売上状況

(単位：千円)



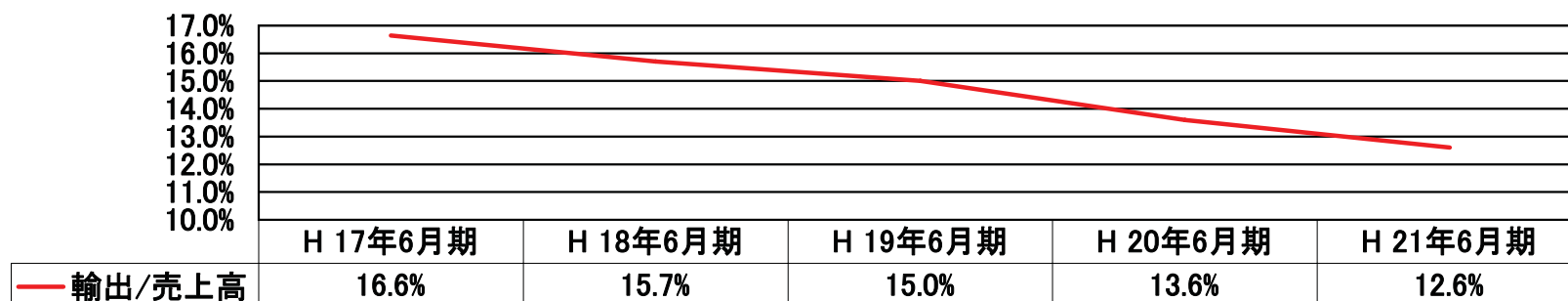
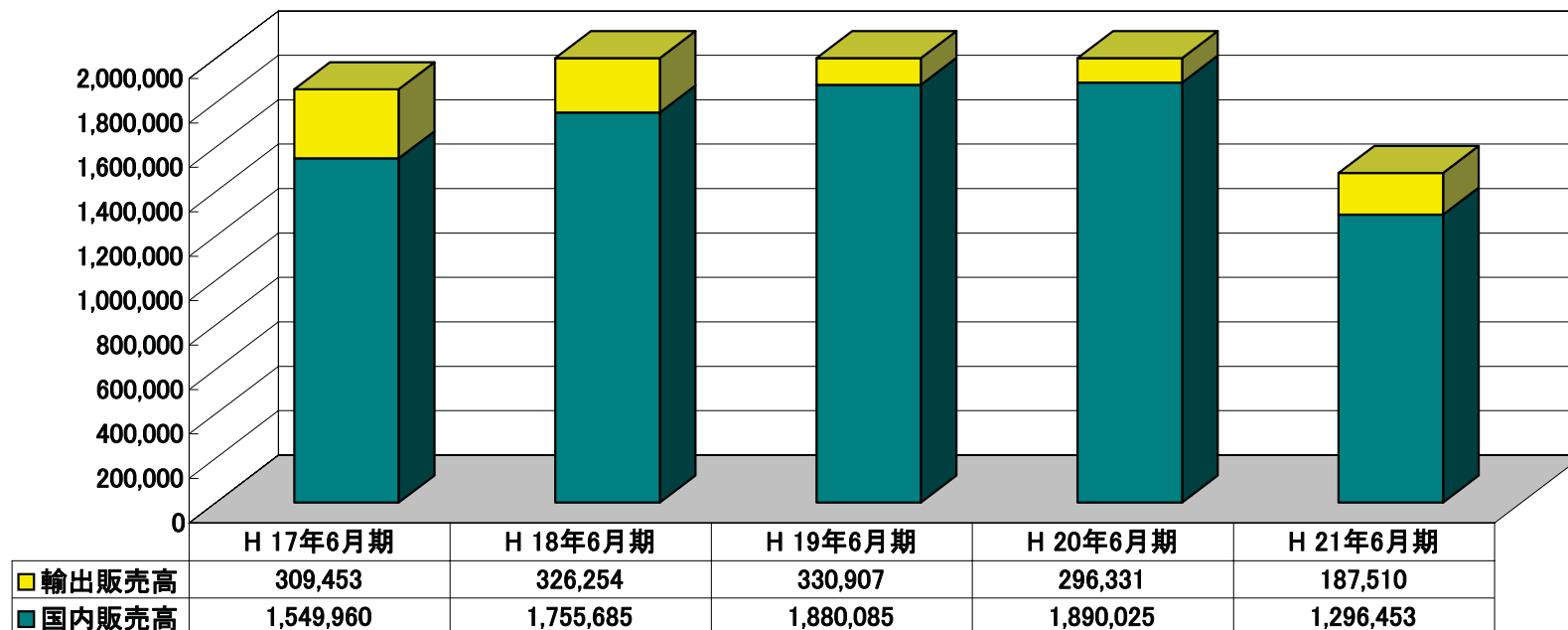
上半期部門別売上状況

(単位：千円)



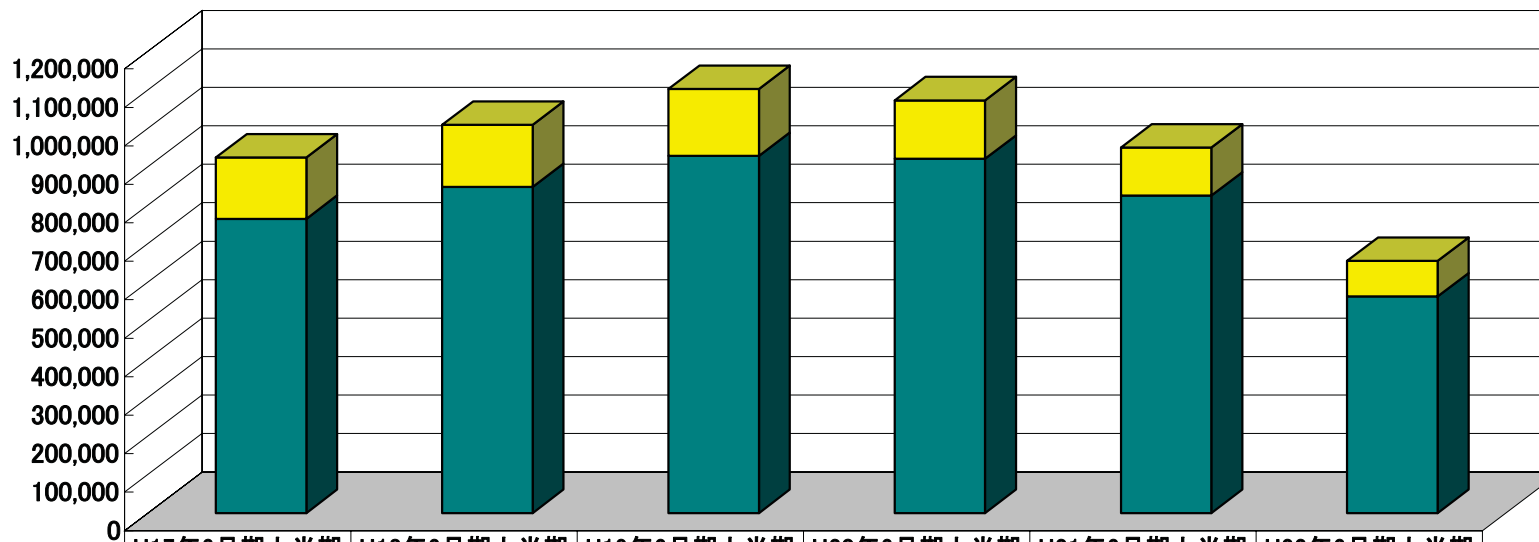
輸出売上状況

(単位：千円)

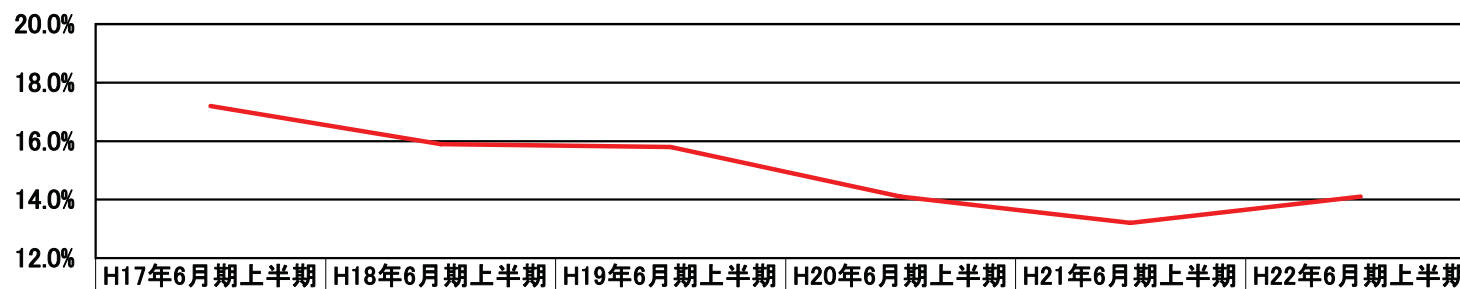


上半期輸出売上状況

(単位：千円)



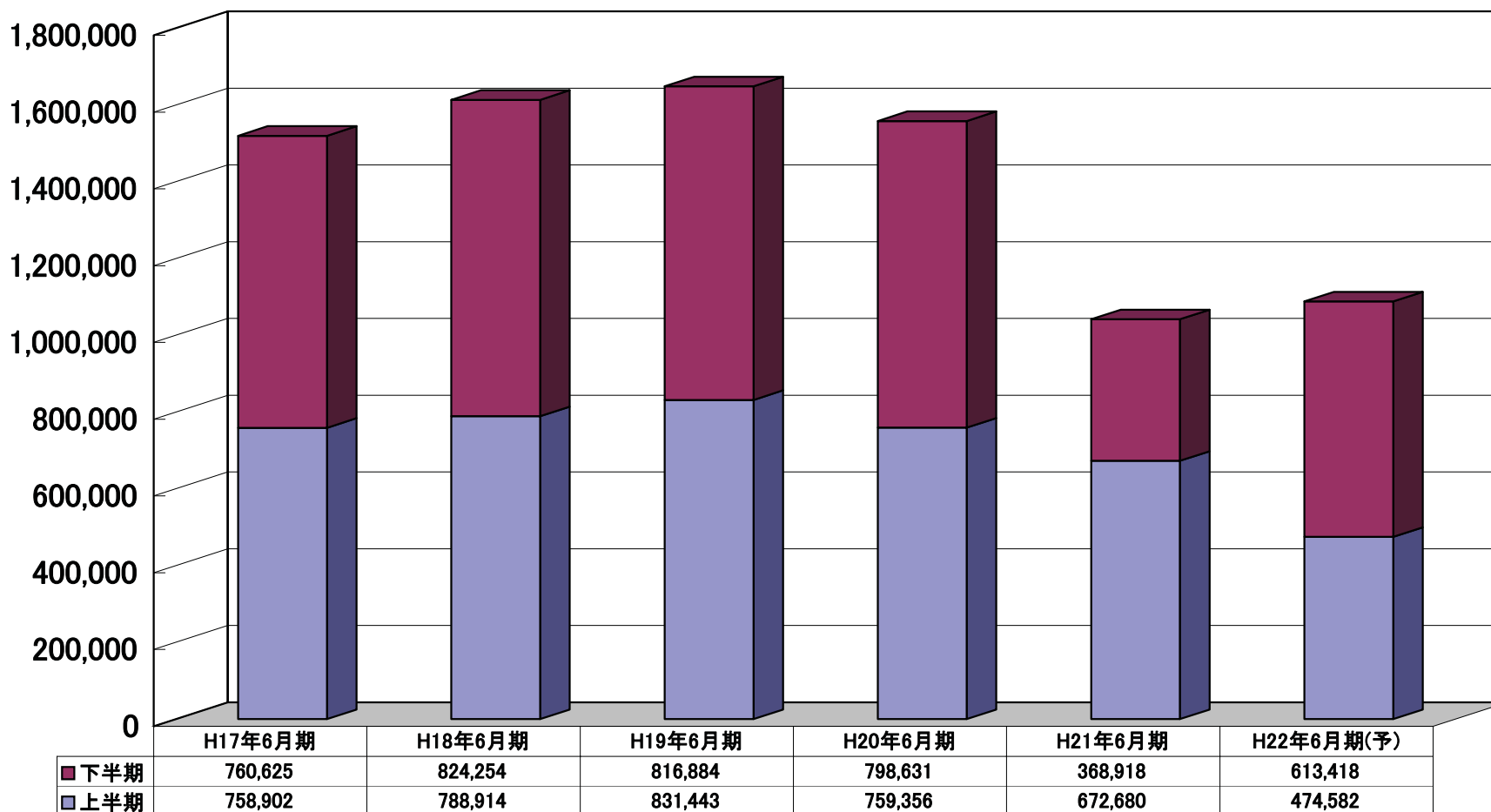
	H17年6月期上半期	H18年6月期上半期	H19年6月期上半期	H20年6月期上半期	H21年6月期上半期	H22年6月期上半期
輸出販売高	159,134	160,871	173,919	151,624	125,336	92,315
国内販売高	764,708	847,911	928,424	921,004	824,828	562,973



	H17年6月期上半期	H18年6月期上半期	H19年6月期上半期	H20年6月期上半期	H21年6月期上半期	H22年6月期上半期
輸出/売上高	17.2%	15.9%	15.8%	14.1%	13.2%	14.1%

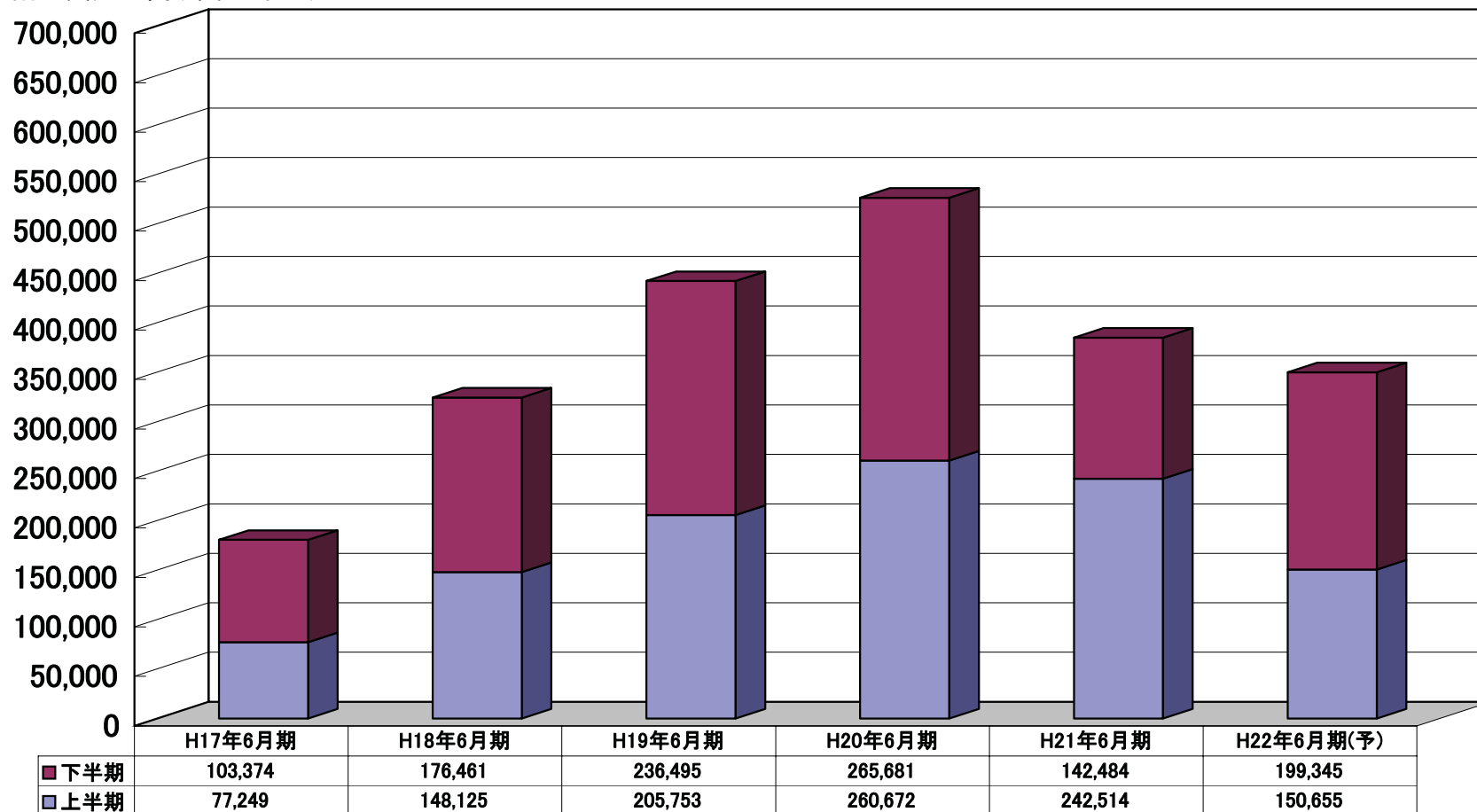
部門別状況 ～ コレットチャック部門

コレットチャック部門売上高(単位:千円)



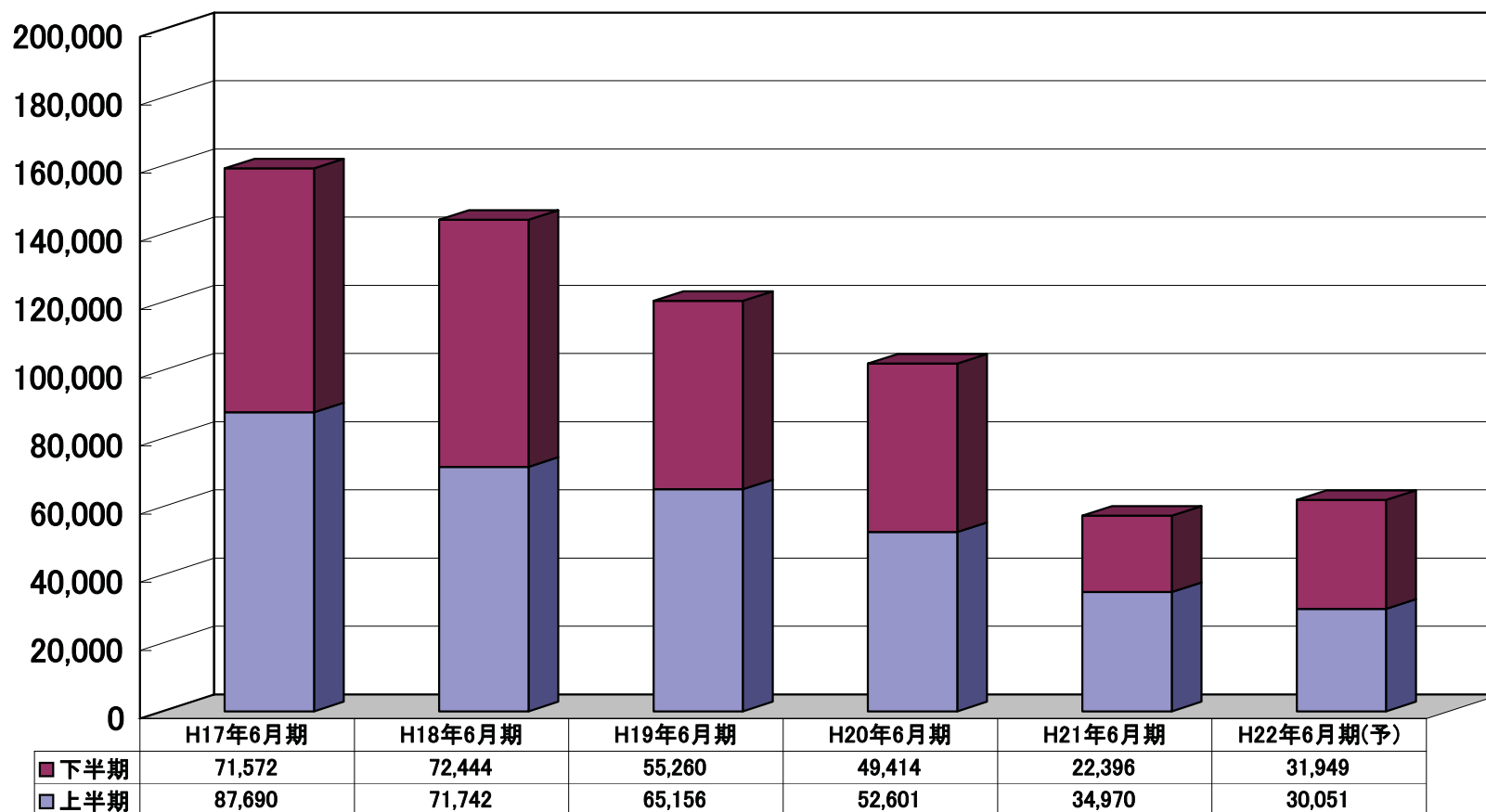
部門別状況 ～ 切削工具部門

切削工具売上高(単位:千円)



部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

カム部門売上高(単位:千円)



設備投資と減価償却実施額

設備投資額 (単位:千円)	H18年6月期	H19年6月期	H20年6月期	H21年6月期	H22年6月期
中間期	110,003	185,725	182,279	303,846	163,281
通 期	153,724	319,382	196,955	513,931	166,286(予)

減価償却費 (単位:千円)	H18年6月期	H19年6月期	H20年6月期	H21年6月期	H22年6月期
中間期	70,212	70,659	89,107	99,654	111,069
通 期	146,368	158,136	194,751	210,917	223,835(予)

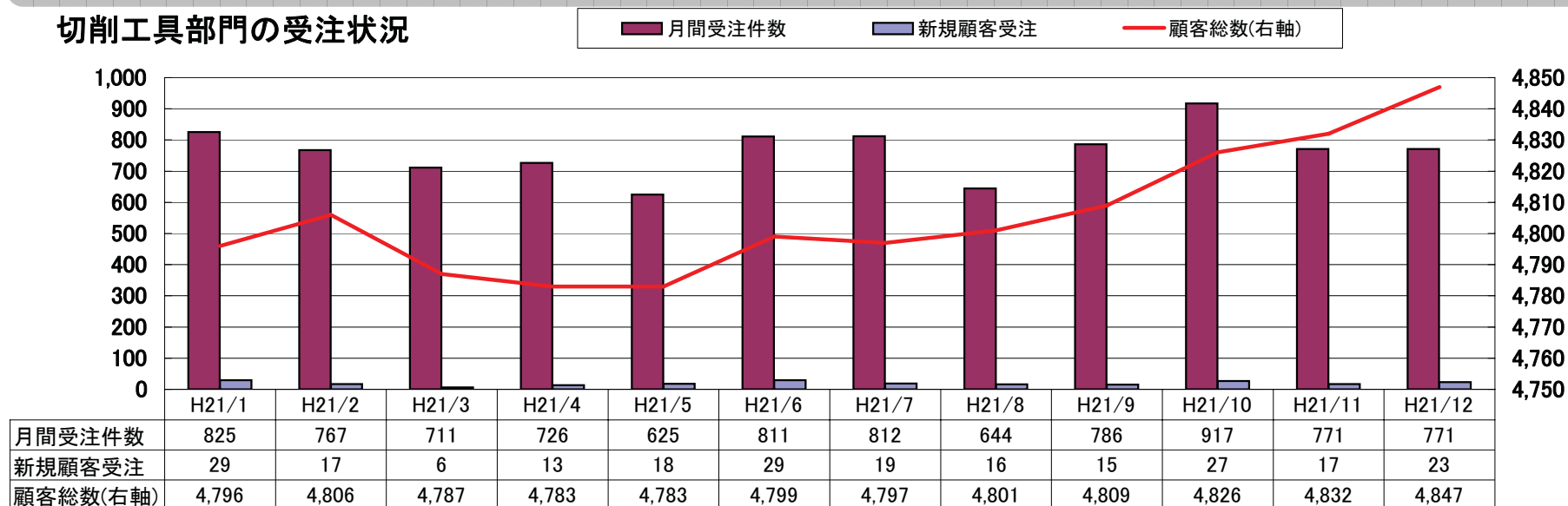
切削工具部門の戦略と受注状況

受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

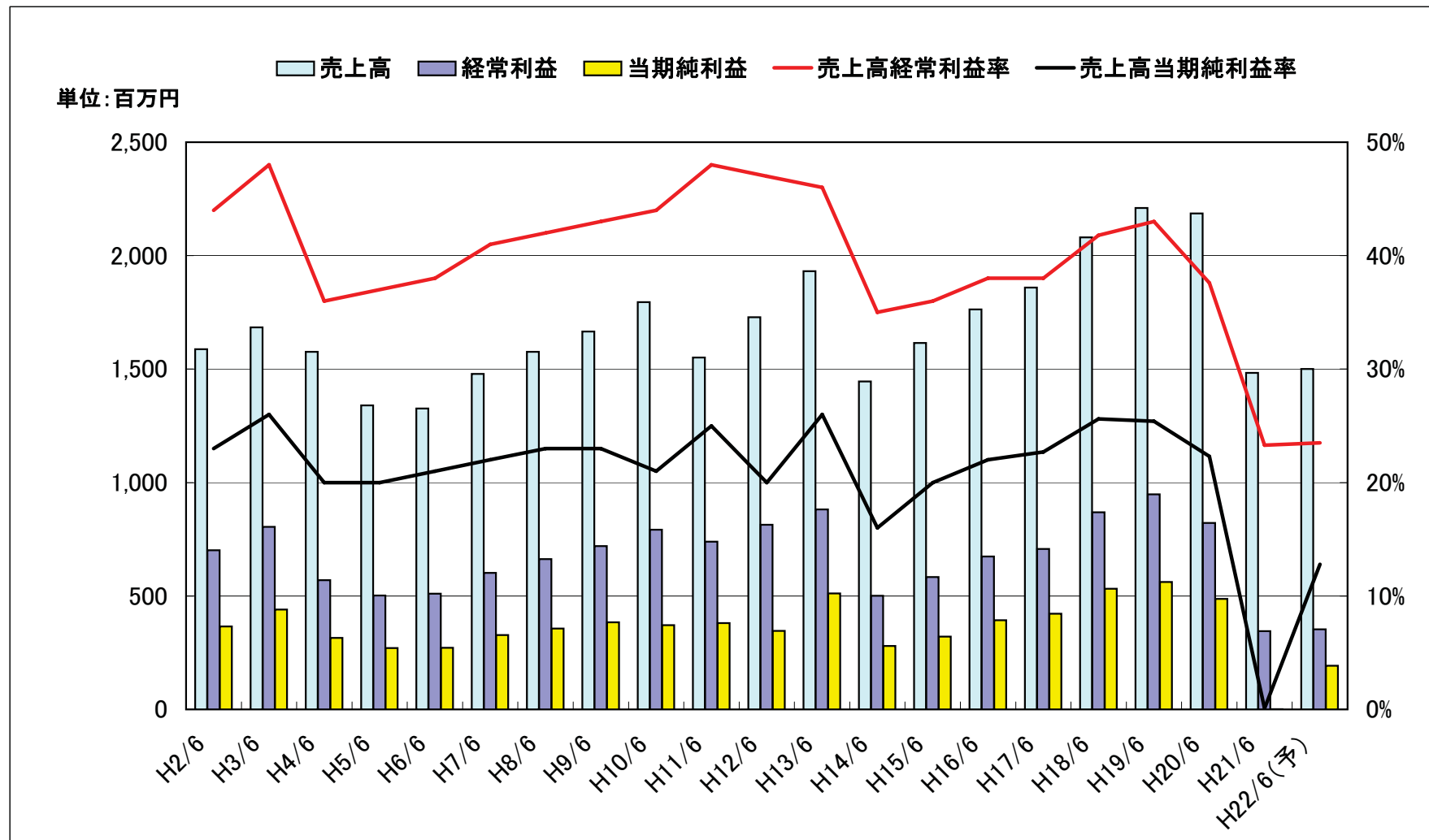
新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める

切削工具部門の受注状況



業績の推移



実質機械受注と月次売上高

